

1 次の文章A・Bを読んで、下記の設問(問1～10)に答えなさい。

A 古代律令制下では、畿内と諸国府とをむすぶ官道が整備されるとともに、交通上の要衝には関が設置された。関は、日の出から日の入りまで開かれ、正丁から徴発される兵士が交替で守衛にあたり、関司(関の役人)が通行者を到着順に審査した。通行者は、氏名・年齢・行先などを記した過所とよばれる通行証を携行する必要があるが、関司は、通行者が持参した過所を審査し、問題がなければ通過を許可した。調・庸を運搬する運脚が通過する場合であっても、名簿によって管理することになっていた。

数ある関のなかでも、アの伊勢国鈴鹿関、イの美濃国不破関、北陸道の越前国愛発関はとくに重要視され、三関とよばれた。三関には、兵器・食糧が常備され、国司の目以上が常駐して警戒にあたった。謀反や天皇の譲位・死去などの有事に際しては、都から固関使が派遣されて三関は閉ざされ、通行が禁じられた。これを固関といい、外敵が畿内に侵入するのを阻止するとともに、謀反を犯した者が畿内から逃走するのを阻止する目的があったと言われる。天平宝字8年(764)の恵美押勝の乱では、機先を制した孝謙太上天皇が固関を行い、越前に逃れようとした恵美押勝の退路を断って、これを滅ぼしたことが知られている。この例からも、三関の軍事上の意義をうかがうことができよう。

問1 空欄 ア ・ イ に当てはまる語を答えなさい。

問2 下線部(a)には、公用で往来する駅使のための休息・宿泊施設が設けられた。この施設を何というか、答えなさい。

問3 下線部(b)は、東北や九州など一部の地域を除いて、延暦11年(792)に廃止された。これに代わって敷かれた兵制について、50字以内で説明しなさい。

問 4 下線部(c)にあるように、政府が、関を通過しようとする一般民衆を厳重に審査させていたのはなぜか、50字以内で説明しなさい。

問 5 下線部(d)を鎮圧した孝謙太上天皇は、を廃位して淡路に流し、みずからは重祚して称徳天皇となった。称徳天皇の時代には、道鏡が太政大臣・禅師、ついでとなって権勢を振るい、の造営や百万塔の造立など仏教の興隆がはかられた。

空欄 ~ に当てはまる語あるいは人名を答えなさい。

B 9世紀には、唐から伝えられた密教が、しだいにさかんになった。延暦23年(804)に入唐した カ は、長安の青竜寺のけいか恵果より密教を授けられ、帰国して真言宗を開いた。天台宗でも、承和5年(838)には最澄(e)の弟子の円仁が、ついで仁寿3年(853)には円珍(f)が入唐して、天台宗の密教化を推し進めた(g)。

密教では、秘奥な教えを文字で表現し尽くすのは難しく、図画を用いて理解させる必要があるとして、密教世界を図説した(h)両界曼荼羅ごうがいまんだらが作られた。また、忿怒ぶんぬの形相をして悪魔や煩惱ごうぶくを降伏する不動明王もよく描かれ、ともに修法に用いられた。

問6 空欄 カ に当てはまる人名を答えなさい。

問7 下線部(e)は、天台宗を開いたのち、あることを目指してその勅許を請うたところ、僧綱や南都七大寺から激しい反対にあった。下線部(e)が目指したことは何か、20字以内で述べなさい。

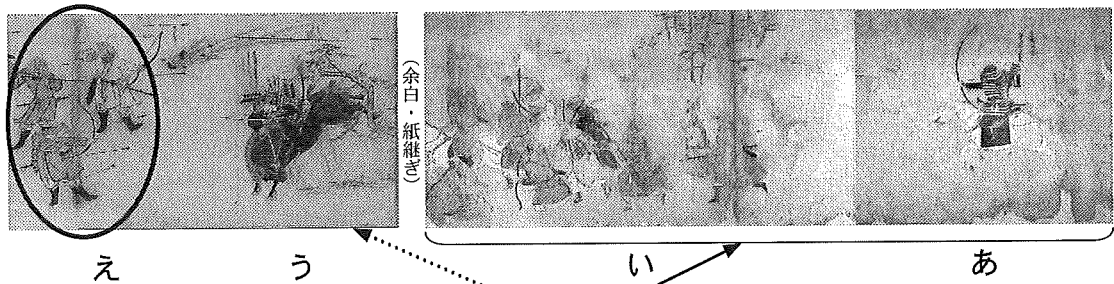
問8 10世紀末以降に円仁の門流と対立した、下線部(f)の門流の名と、その門流が拠った寺院の名を、それぞれ答えなさい。

問9 下線部(g)に関連して、天台宗の密教を台密というのに対し、真言宗の密教を何というか、漢字2字で答えなさい。

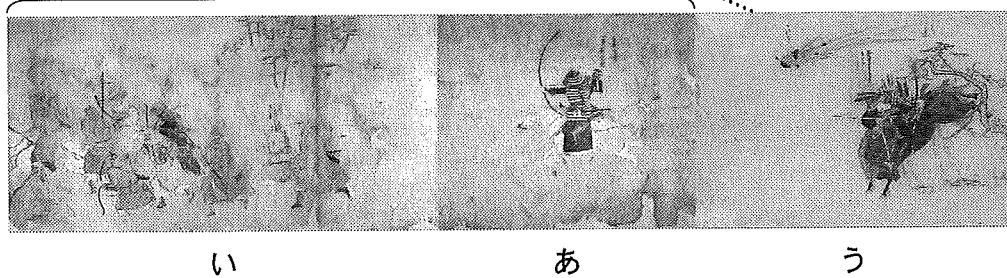
問10 下線部(h)の中にも描かれている、密教の中心とされる仏(本尊)を何というか、答えなさい。

- 2 次の図A・Bおよびこれに関する文章を読んで、下記の設問(問1・2)に答えなさい。なお、出題の都合上、史料(図)は改めたり省略したりした箇所がある。

図A



図B



歴史学は史料に基づく学問である。したがって、個々の史料の成り立ちが非常に重要となってくる。ところが、史料には時に意図的な改変が加えられることもあり、注意を要する場合が少なくない。

たとえば、上掲の図Aは、有名な『蒙古襲来絵詞』(三の丸尚蔵館収蔵)の一部である。血を流しつつ跳ねる黒馬に竹崎季長(う)がまたがり、弓や長槍をもつモンゴル兵3名(え)に勇猛果敢ゆうもうがかんに向かっていく。この様子は、季長の頭上に炸裂するモンゴル側の「てつはう」(火薬の武器)とともに、ひときわ印象に残る場面である。

ところが、本絵巻は、制作時から現在に至るまでの長い間に、制作当初の段階から懸け離れた構成となっていることが早くから指摘されてきた。具体的には、紙継ぎの順序が入れ替わったり、紙を足して新たな絵や詞書ことばがき(場面の内容を説明する文章)が追加されたりするなどである。とくに近年、赤外線写真撮影によっ

て、絵画表現そのものに改変が加えられていた事実が明確になった。なかでも注目されるのは、図Aのモンゴル兵3名(え)が、いつとは確定できないものの、後世に加筆されたものだという事実である。

こうした点に着目し、改変前の状態を想像復元する試行錯誤が繰り返されてきた。その復元案の一つが、図Bである。図A(現状)では、白馬の上の御家人(あ)がモンゴル兵(い)を追い込み、その先に黒馬の上の季長(う)、そして3名のモンゴル兵(え)が構えている。しかし、図B(復元案)では、逃げるモンゴル兵の一群(い)を追い込む白馬の御家人(あ)、そしてその後ろには黒馬の季長(う)がいるという構図である。これを記号であらわすと、改変前の図Bは右からう・あ・いの順、改変後の図Aは同じく右からあ・い・うの順となり、最終段階でえが描き加えられた、ということになる。つまり、場面の前後が入れ替わった(矢印参照)という仮説だ。

この図B(復元案)の妙は、図A(現状)よりも物語の展開としてはるかに自然だという点にあらう。すなわち、図Aでは、白馬の御家人から逃げるモンゴル兵たちを描くが、その描写の左側(時間的には^{あと}後)に余白を挟んでからモンゴル兵3名と^{たいじ}対峙する黒馬の季長を表わす。つまり、黒馬の季長と白馬の御家人とが一緒に行動しているようにはどうやっても解釈しづらい。ところが図Bでは、その余白を挟まないで、白馬の御家人と黒馬の季長とが一同にモンゴル兵を^お逐う明快な構図である。しかもこれは、右から左へ時間が流れる絵巻物の性質にも見事に^{かな}適っている。

もちろん、図Bのような試案自体、まだ完全なものではないが、モンゴル襲来時の合戦場面のイメージを変える可能性のあることだけは確かであろう。

そして、図Aと図Bの相違が教えてくれるのは、その絵画史料が、制作者や発注者、所蔵者の思惑により、内容の取捨選択や改変を幾度も受けた可能性をはらむという事実である。そして、こうしたことは絵画史料に限らない。たとえば^{もんじょ}文書や日記などのような文献史料を取り扱う場合でも、まずそれ自体の詳細な観察と慎重な評価が絶対に欠かせない。さもなくば、史料の的確な解釈など到底できないはずだ。

問 1 『蒙古襲来絵詞』は、肥後国の御家人である竹崎季長が、モンゴル襲来(対モンゴル戦争)での活躍の見返りに地頭職を得たことに感謝し、自身の信仰する神社に奉納するために制作されたものと伝えられている。

- (1) 鎌倉時代の御家人とはいかなる存在であったか、30字以内で説明しなさい。
- (2) 文治元年(1185)、(a)日本の諸国に地頭を設置する権限を認められた人物は誰か。また、(b)そのきっかけを作り、当初、地頭が追討・搜索する対象となった人物は誰か。それぞれ答えなさい。
- (3) モンゴル襲来当時の幕府執権は誰であったか、答えなさい。
- (4) 同じく、その当時の元朝(モンゴル帝国)の皇帝は誰であったか、答えなさい。
- (5) モンゴル襲来の時期、御家人たちが北部九州沿岸で課された軍役を何と呼ぶか、答えなさい。また、その軍役を通じて海岸沿いに構築されたものを何と呼ぶか、答えなさい。
- (6) その後、モンゴル襲来は元朝側の失敗に終わる。その原因の一つに『蒙古襲来絵詞』に描かれたような御家人たちの奮戦があるが、別の要因として、日本への襲来以前から存在する、元朝を取り巻く国際情勢もあった。それは何か、具体的に40字以内で説明しなさい。
- (7) モンゴル襲来は2度で終わったが、鎌倉幕府は3度目の襲来があることを恐れていた。そのため、幕府の御家人だけでなく、全国の ・公領の武士を動員する権利を に認めさせた。空欄 ・ に当てはまる語句をそれぞれ答えなさい。

問 2 『蒙古襲来絵詞』について、下記の問いに答えなさい。

- (1) 図A・図Bを比較すると、弓や長槍をもつモンゴル兵3名(え)の有無がもっとも大きな違いとしてまず目を引く。なぜ、このモンゴル兵3名(え)は最終的に描き加えられたのだろうか。この絵巻の主人公とされる竹崎季長、あるいは彼を顕彰したい人間にとっての利点を考慮しつつ、50字以内で説明しなさい。
- (2) 『蒙古襲来絵詞』に表現された御家人とモンゴル兵との姿に注目し、当時の日本軍とモンゴル軍との戦闘方法の相違を50字以内で説明しなさい。

3 次の文章ならびに史料1・2を読んで、下記の設問(問1～11)に答えなさい。

なお、出題の都合上、史料は改めたり省略したりした箇所がある。

回想や回顧録は、その時代背景を踏まえて読むと、具体的な歴史像をうかがうことができる点で、重要な史料と見なされる。以下の史料1は琉球藩王の王子であった尚順の、史料2は明治維新直後に長崎で外交事務にあたった大隈重信の、それぞれ回想である。

史料1

「ア城^{あけわた}明渡し」という芝居は、不幸にして見ていない。見る機会が無かったのではなく、見る気がしなかったのである。少なくとも私にとって廃藩置^(a)県という事件は、幼いながらも、幾つかの生々しい印象を残している。それは、決して沖縄県人の一人としてではなく、琉球藩王^(b)の子供として、あの事件は私の一家にとって確かに一つの悲劇であった。

(中略)

ア城を明渡し、即ち廃藩置県^{ちよつと}の一寸前、有名な支那党^{しな}^{注1}の首領、亀川親方^{べっけん}^{注2}を瞥見した記憶がある。何でも夜晩く^{おそ}であった。然し子供の事だから夜晩くの積りでも、或^{あるい}は宵の口^{よい}^{注3}であったかも知れない。父の御居間に白髯^{はくぜん}の老翁^{ろうや}^{注4}が伺候^{しこう}^{注5}して、何か大声で物を言っていた。物を言う度に、胸に垂れた白髯^{かす}^(c)が微かにふるえるのが、不思議に記憶に残っている。

(『松山王子尚順全文集』)

注1：支那党……支那(中国)に頼り琉球王国の存続を模索した党派。

注2：亀川親方……亀川^{せいぶ}盛武のこと。かつて琉球王国の高官(三司官)を務めていた重臣。「親方」は身分を示す敬称。

注3：宵の口……日が暮れて間もない頃。

注4：白髯の老翁……白いひげの老いた男性のこと。

注5：伺候……貴人のそば近くに参上すること。

問 1 空欄 に当てはまる語句を答えなさい。

問 2 下線部(a)は 1879 年に行われた沖縄における廃藩置県をいうが、北海道(蝦夷島)・本州・四国・九州における廃藩置県については、次のような経緯があった。明治維新の過程で、近世の天領はおおむね府県とされ、新政府の直轄地とされた。その後、新政府は 1869 年、薩摩・長州・・ の四藩主にはたらきかけ、その領地・領民の支配権の返上を天皇に出願させた。これを という。諸藩の大名も、これにならった。しかし、旧大名は に任じられ、家禄と藩財政は分離されたものの、藩領の行政は継続し、藩による徴税と軍事の権利も維持された。新政府は中央集権をはかるべく、1871 年に廃藩置県を断行し、旧藩領の行政は政府から派遣した県令(府に編入された地域は府知事)に当たらせ、 は罷免し東京に居住させた。

空欄 ~ に当てはまる語句を答えなさい。

問 3 下線部(b)の琉球藩王は、中国皇帝に任命されていた琉球国王を、日本の藩王として 1872 年に天皇が改めて任命したかたちをとっている。

- (1) 近世の琉球王国と幕藩体制の日本との関係について、政治・外交の観点から、90 字以内で説明しなさい。
- (2) 琉球藩王とされた人物の名前を答えなさい。

問 4 下線部(c)は、亀川親方が琉球藩王に意見を直接述べている様子に関する回想である。このことに関連して、明治政府により強行された琉球藩の設置から廃藩置県に至る一連の政治過程を、日本側から見て何と云うか、答えなさい。

史料2

沢主水正^{注6} 九州鎮撫総督となりて、参謀井上馨と共に〔長崎へ〕下り来る。
(中略)余^{注7}は直に沢に撰拔せられて、総督府の副参謀となり、次で外交事務に
あた^あるべきの命を受けたり。元来沢は極端の攘夷家なり。曾て三条等と共に京
師^{注8}を脱して長藩^{注9}に倚りし^{注10}ものの一人にして、今尚ほ攘夷の念を除却せ
ざるの人なり。且つ、彼は国学者にして王政維新とともに神道の気焰^{きえん}を吐か
ん^{注11}と熱心に希図する一人なり。此時恰も長崎に於て、耶蘇教問題起れり。
長崎は我国に於て尤も長く、且尤も多く耶蘇教の歴史を有する所なり。西班牙
(f)及び葡萄牙の宣教師が数百年前に於て、一度其謂ゆる福音の種を蒔きしより以
来、徳川幕府は之れを厳禁し、擬する^{注12}に死刑を以てしたるに拘はらず、密に
(g)之れを尊奉するものは常に絶えず。而して幕末の法令漸く解弛^{注13}するに従ひ、
之れに帰依するもの漸く多く、幕吏之れを覚りて罰する所あらんとせしも、英仏
諸国の痛く^{注14}拒む所と為りて、遂に其俣にして止みたりき。事情斯くの如くな
りしを以て、長崎近傍に於ては耶蘇教愈々其勢を逞しふして^{注15}、信者の数、数
千の多きに達し、中には殆ど一村を挙げて之れを奉ずるものあるに至れり。
当時の法律は依然として耶蘇教を厳禁し、之れを信ずるものは死刑に処せらる
(j)べきものなり。(中略)沢は耶蘇教に対しては、言ふまでもなく絶対的反对者な
り。

(『大隈伯昔日譚』)

注6：沢主水正……沢宣嘉のこと。近世には公卿。「主水正」は官職名。

注7：余……自分のこと。ここでは大隈重信自身を指す。

注8：京師……京都のこと。

注9：長藩……長州藩のこと。

注10：倚りし……頼った、という意味。

注11：神道の気焰を吐かん……神道を盛んにしよう、という意味。

注12：擬する……つきつけること。

注13：解弛……解きゆるむこと。

注14：痛く……ここでは，強く，という意味。

注15：逞しふして……盛んにして，ということ。

問 5 下線部(d)につき，沢が「三条等」とともに「京師」から「長藩」に赴く原因となった事件を何というか，答えなさい。

問 6 下線部(e)に関連して，神道の国教化を目指して1870年に政府が天皇の名によって発した詔書を何というか，答えなさい。

問 7 下線部(f)につき，この地を「耶蘇教」の修道会へ寄進した戦国大名を答えなさい。

問 8 下線部(g)につき，幕府が「耶蘇教」を厳禁した理由を，50字以内で説明しなさい。

問 9 下線部(h)に関して，こうした信仰を持った者たちのことを何というか，答えなさい。

問10 下線部(i)に関して，1865年に長崎の大浦天主堂を訪れ，「耶蘇教」の信仰を告白した者たちが住んだ村の名称を答えなさい。

問11 下線部(j)に関して，「耶蘇教」の禁止をはかるため，幕府が仏教を通じて実施してきた制度について知るところを，35字以内で説明しなさい。

- 4 次の史料1～4を読んで、下記の設問(問1～11)に答えなさい。なお、出題の都合上、史料は改めたり省略したりした箇所がある。

史料1

戦争は八月に宣戦の詔勅が下つて翌年の四月には終つてゐたのであるから、今^(a)から思へばのんきな戦争であつたと云へる。しかし私には此の戦争の理由が呑み込めなかつたので、或る日その訳を父に尋ねると、父は晩の食事の時に、
「よし、お父つあんがよく分るやうに話してやろう、まあこゝへ来な」と、私を膳の傍へ坐らせて、一杯飲みながら長々と一席弁じたことがあつた。
が、正直のところ、父の説明はむづかし過ぎて、私には理解出来なかつた。私が^(b)一番不思議に感じたのは、朝鮮の事件である 党の叛乱に、どうして日
本の軍隊が出動しなければならなかつたのか、而も朝鮮へ出かけて行つて支那の
軍隊と交戦したのはどう云ふ訳かと云ふことで、これは何としても領けなかつ
た。

(谷崎潤一郎『幼少時代』)

問1 下線部(a)について、なぜ「のんきな戦争」といえるのか。『幼少時代』が1955～6年に雑誌に連載された作品であることに留意して、簡略に説明しなさい。

問2 下線部(b)について、

- (1) 空欄 に当てはまる言葉を答えなさい。
- (2) 谷崎少年の疑問を解くために、第一回帝国議会における総理大臣施政方針演説と、「支那」の対朝鮮政策とをふまえて、「此の戦争の理由」を40字以内で説明しなさい。

史料 2

或る元老の所へ連盟問題を持って行ったところが、向うからその問題を切出されて、どうも国際連盟というものが起りそうだが、これはデモクラシーの国でないといれぬという話だ、デモクラシーの仲間だけで国際連盟をやるということが伝わっているが、どうしたものだろうと言われるので、私は、そのデモクラシー^(c)という言葉は広い意味で、その当時盛んに世間に言われた帝国主義とか独裁政治とかいう問題に対するデモクラシーであって、必ずしも憲法の内容、または共和政治とか君主国とかいう細かいことまでを含んでのデモクラシーではないと思えますと言うと、それならば日本などもそういうことが国際連盟に入る障^{しょうがい}碍にはならぬと思うが、しかしそれも規定の如何に依ることで、大勢が各国共に国際連盟に入るということであれば、その除外を求むるわけにも行くまいというようなこともあった。

私がこの問題に対して一番厭^{いや}な思いをしていたのは、国際連盟というのは、い^(d)ずれそのために主権を束縛されるということになると思っていたことである。各国と行動を共にしなければならぬ、また、外国に対する義務を負わなければならぬというようなことが、いずれ起るであろう。自ら主権の働きを制約するようなことになっては甚だ面白くないという感じを持って居った。

(牧野伸顕『回顧録』(下))

問 3 下線部(c)について、牧野伸顕の説明は独創とは言い難い。同様の議論を公表して世論に大きな影響をおよぼした人物がいたからである。

- (1) その人物は誰か、答えなさい。
- (2) その人物が提唱したデモクラシーの名称は何か、答えなさい。

問 4 下線部(d)について、

- (1) 牧野伸顕が主権束縛に「厭な思い」を感じたのは何故か、40字以内で答えなさい。その際、史料2の内容がいつ頃のものが、また、1911年に何があったか、のふたつに言及しなさい。
- (2) 牧野伸顕の予感^{よかん}は後に的中し、日本は国際連盟を脱退した。このとき日本全権代表をつとめた人物は誰か、答えなさい。

史料 3

昭和の初期に「イ」(一冊一円の文学全集でブームになったものです)があつて、その頃はまだ、どこの古本屋に行ってもイが並んでいました。

ウ社の『現代日本文学全集』、春陽堂の『明治大正文学全集』、平凡社の『現代大衆文学全集』……子供ながら、とにかく片っ端から読んでいました。(中略)

当時の海外作品の〔黒岩〕涙香訳は、題名や人名の翻訳が独特で、大デューマの『モンテ・クリスト伯』は^(e)〔巖窟王^{がんくつ}〕、ユーゴーの『レ・ミゼラブル』は『噫無情^{あゐ}〕。登場人物も、エドモン・ダンテスは「団友太郎」、ダングラールは段倉男爵、なかなかうまい訳でしたね。

それほど小説が好きでしたから、小学校時代から、自分で小説を書くようになっていました。(中略)雑誌に載った作品もあるんですよ。『怪塔ロケット』なる冒険 SF 小説で、一五〇枚の大作です。掲載されたのは^(f)〔綴方学校〕という雑誌。一九三九年(私が九歳)の時の作品です。この雑誌は、教師向けの雑誌でしたが、たまたま主宰者が父の知り合いで、「そんな子供が長編小説を書いているなんて、面白い」と、原稿を読んでくれて、掲載されたのでした。(中略)

一九四〇年の春、私が一〇歳の時のことです。父から「作家では、誰が好きなんだ」と聞かれたので、迷わず「吉川英治」と答えました。

すると、しばらくして父が^(g)「今度、吉川さんの家に連れて行くから」と言うじゃありませんか。(中略)

その頃書いていた小説をいくつか持って行って、パラパラと読んでいただき、しばらくおしゃべりをして、最後にみごとな忠告をいただきました。

「二〇歳になって、まだ書く気があったら、もう一度いらっしゃい」

さすがです。二〇歳になった時には、もう小説を書く気はなくなっていました^(h)から。

(不破哲三『私の戦後六〇年』)

問 5 空欄 ・ に当てはまる言葉を答えなさい。なお、空欄 には『中央公論』とともに総合雑誌の代表に数えられた雑誌名が入る。

問 6 下線部(e)について、

- (1) 黒岩涙香は新聞経営者、新聞記者でもあった。黒岩涙香が 1892 年に創刊した新聞の名称を答えなさい。
- (2) 日露戦争開戦前、黒岩涙香は非戦の論陣を張っていたが、経営悪化を理由に開戦論に転じた。この方針転換に憤って(1)の新聞を去った人物をひとり答えなさい。

問 7 下線部(f)について、「綴方」とは何か、答えなさい。

問 8 下線部(g)について、吉川英治は前年まで『東京朝日新聞』『大阪朝日新聞』に連載していた『宮本武蔵』が好評を博して、時代小説の書き手として押しも押されもしない人気作家となっていた。

- (1) 吉川英治は 1942 年には の理事に就任して、文学者として戦争に協力した。空欄 に当てはまる言葉を答えなさい。
- (2) 吉川英治は戦後も人気を維持し、1958 年から『毎日新聞』に連載した『私本太平記』では、1945 年以前には天皇に反旗を翻した大悪人とされていた南北朝時代の人物を主役にすえて新たな解釈を示した。このかつて大悪人とされていた人物は誰か、答えなさい。

問 9 下線部(h)について、20 歳の不破青年が「もう小説を書く気はなくなって」いた背景には、17 歳の誕生日の直前にある政党に入党して、政治活動に従事していたことも関係していたと思われる。不破哲三は後年この政党の指導者になっている。この政党の名称を答えなさい。

史料 4

ここ〔三四郎池を囲む築山〕は数百名の革マル派が守っているはずだった。当然激戦が予想されたので、精鋭四機の担当となっていた。ところがここももぬけの殻、革マル派は一人もいない。(中略)革マル派はこれからの息の長い七〇年反安保闘争⁽ⁱ⁾に備えて勢力を温存するため、安田城攻めの前夜、十七日の夜に全員構外に脱出していたのだった。

このことが尾を引いて後々まで続く中核派と革マル派の確執と、血で血を洗う陰惨な内ゲバへとエスカレートしてゆくのだ。

当時学生たちの間で流行った過激派のセクト用語に「日和る」というのがあった。「日和見」を動詞化した学生言葉だ。

彼らの用語でいえば革マル派は「日和った」のである。「日和った」革マルと「自己破壊の美学」に酔って安田城に籠城して玉砕の道を選んだ他のセクト、とくに中核派との間には深い不信の亀裂が生じ、代々木系 VS 反代々木系の闘争^(j)に加えて、反代々木系内部での「内ゲバ」が発生する原因になる。

(佐々淳行『東大落城』)

問10 下線部(i)について、反安保闘争が1970年を重視した理由を35字以内で説明しなさい。

問11 下線部(j)について、

(1) 「代々木系」とは、山手線代々木駅近くに本部を構えた革新政党を指している。革新政党はひとつではなかった。このほかの革新政党として、総評の支持を背景に国会に多くの議席を確保した がある。空欄 に当てはまる政党の名称を答えなさい。

(2) 「反代々木系」とは、(1)の既成の革新政党を批判する人々を指している。このような人々を総称して何と呼ぶか、答えなさい。